



同窓会報 ひらまの輪 vol.01

在校生との絆つむぐ

会長挨拶



同窓会長の阿部操（あべみさお）と申します。

2022（令和4）年12月の同窓会臨時総会で、会長に就任いたしました。私は1972（昭和47）年に卒業した、10期生です。卒業後の大学生時代に同窓会の運営をお手伝いしていましたが、社会人になり同窓会とは疎遠になっておりました。そして、サラリーマン人生を終えたいま、母校の卒業生として同窓会の運営に携わってまいります。

か、卒業式や入学式、5月の体育祭にも出席し、元氣な応援合戦は今も健在で、うれしく思いました。これからも行事に参加させてもらい、在校生の皆さんとのつながりを大切にしたいです。

同窓会は私の3人の子供も含め、卒業生である1万7000人超の会員の協力で成り立っています。同窓会長の辻敏明校長先生▽副会長 金持敏雄（3期）、今野悠貴（46期）▽会計監査 鈴木一吉（1期）、森田博昭（2期）▽事務局 古屋明利（1期）、細川弘美（32期）、大野達也（40期）、福地源太（52期）▽会計 河野利智（12期）、山内暢人（43期）▽サポーター 土屋和彦（1期）、水越久雄

中断していた同窓会活動を前会長・宮島智さんに再開いただきました。その意思を引き継いで、今後の同窓会を盛り上げていく所存です。



ふれあい教室で和菓子作り教室を開いた12期の宮島智さん（右）。生徒は「練り切り菓子」に興味津々。同窓会は費用面などで活動を支援した＝平間中で10月17日撮影

生徒が地域の人たちから技術や芸能などを学ぶ「ふれあい教室」が10月17日、平間中で開かれた。同窓会からは前会長で、和菓子職人の宮島智さん（12期）が和菓子作り教室を開講。生徒30人が「練り切り菓子」作りに挑戦した。宮島さんは軽妙な話術を駆使し、あんこの包み方や、成型道具を使わずに形作る方法などの専門技術を指導した。同窓会は費用面などで支援。同窓生と在校生の交流に一役買った。

和菓子に夢中 ふれあい教室

61期生からの手紙

この春、平間中を卒業した61期生から、同窓会代表幹事の大竹正樹さんに近況を寄せてもらった。

私たち61期生は約4年前、コロナ禍のさなかに平間中に入学しました。臨時休校や学校生活の制限もあり、思うような生活を送れませんでした。しかし、その中でも友人とともに過ごした3年間は私にとっての宝物となっています。今年度は新たな舞台に進みました。緊張や不安、楽しみなどいろいろな感情がありましたが、中学校生活で培った経験のおかげで順調に生活を送っています。また徐々にコロナウイルスも収束しはじめ、できることは全力で楽しみ充実したものにしていきたいです。そして中学校生活での友人関係や思い出、経験などをこれからも一生のものとして大切に、一歩でも成長していきたいと思ひます。（大竹正樹）



わたしの学び舎

3期 金持敏雄さん



全校生徒で1500人以上いたので、教室もグラウンドもいつも大勢の生徒でいっぱいだった。体育祭では、組体操で5段を作ったり、騎馬戦のハチマキ争奪で鼻血を出したりと荒っぽいものだった。修学旅行の集合写真は、比叡山の大階段いっぱいには生徒が並び圧巻だった。3年生のときには、東京オリンピックがあり、横浜市の三ツ沢競技場でサッカーを観戦。試合結果より、往復のバスで騒いだり、お弁当が美味しかったことを覚えてる。新設の学舎

修学旅行での3期生の集合写真 1962年撮影



校だったもので、若い先生が多く、自由な雰囲気な学校生活を味わうことができた。中庭にまだ若くて細い幹の藤棚に少しだけ枝があった。学校の周りは木造平屋建て住宅ばかりで、今は様変わりしていた。



縁を大切に 創作人生60年

平間中を卒業した先輩たちはどんな進路を選んだのか。NAVIGATIONは各界で活躍する同窓生を紹介する。初回は1963年卒業の1期生で、写真造形作家の鈴鹿芳康さん（76）。世界各地で撮影したピンホール写真を中心に創作活動を続けている。在校生に伝えたいメッセージとは。



鈴鹿芳康さん （1期）

—平間中の創立時はどんな様子でしたか

同級生は600人超で、校舎は古市場小のグラウンドに建てたプレハブでした。自分たちで平間中の歴史を作り上げようと意気込んでいました。修学旅行は京都でした。寝る前に友達とふざけすぎたのは、今も変わらないのでしょうか。

—芸術との出会いは

高校2年のときに出会った若い美術の先生が、多摩美術大学の助手になったのがきっかけです。私も同様に進学し、版画で新人賞などを受賞しました。その縁で、京都の大学で教師になりました。その後、米国に留学して写真も学びました。

—鈴鹿さんは「ピンホールカメラ」の第一人者です。どんな写真ですか

ピンホールカメラはすきまのない箱に針穴を開けて、外の光（景色）を捉えるカメラで、レンズがありません。場所を決めたら、ときには1時間以上もカメラを置いておきます。目の前に見える景色ではなく、時間の流れをフィルムに焼き付けるのです。太陽や風や波のゆらめきを幻想的に描くことができます。



鈴鹿さんのホームページ

すずか・よしやす 1947年横浜市生まれ。古市場小、平間中、法政二高を卒業後、多摩美術大学で油絵を学ぶ。米国フルブライト奨学金留学をへて、京都芸術大学や京大などで教鞭をとる。京都美術文化賞受賞。現在は京都芸術大学名誉教授。愛媛県今治市在住。

—創作活動では「縁」を大切にしているそうですね

ピンホールカメラは40代で撮影を始め、日本だけでなくインドネシアやメキシコなどの聖地を回りました。撮影場所は中国の易经という占いを参考に決めています。自分で決めるのではなく、自然の摂理に導かれること。つまり縁だと思います。

—在校生にメッセージをお願いします

昨年、京都の清水寺での個展に修学旅行中の3年生（当時）が来てくれました。これも縁ですね。中学校では、入学時は顔も知らなかった同級生が、卒業するころには友達になります。3年間の偶然の縁を大切に、互いの違いを認め合う関係を作ってほしいです。それから自分を信じ続けること。努力を続ければ夢はぐっと近づくはずですよ。

鈴鹿さんがピンホールカメラで世界各地を撮影した写真集「WIND MANDALA」（2018年）を特別価格で販売します。定価1万3000円のところ1万円（送料込み）。鈴鹿さんは売り上げの半分を同窓会に寄付いただきます。お問い合わせは同窓会事務局（090-2169-4445）まで。

投稿募集します

同窓会報は、在校生と同窓生をつなぐ新聞です。同窓会の報告や、活躍している同窓生、スクールメモリーなど幅広く募集します。

広告のご相談も歓迎します。皆さんに伝えたいことはありませんか。これから末永くよろしくお願ひします。（同窓会役員一同）

「はぐるま」古稀を越えても

米倉先生（前列中央）ら参加者 川崎市麻生区にて9月3日撮影



第21回はぐるま会が9月3日、川崎市麻生区で開かれた。25人の同窓生と恩師の米倉宏先生、福島位共世先生が参加。この会は米倉先生が担任だった3年2組の通称が「はぐるま」だったことにちなみ、1990年から開催している。宴会やボーリング、ときには遠方に足を延ばし、古稀を越えてもなお旧懐を温めている。この日は60年ぶりに再会した同窓生もいた。



2期生同期会 参加者募集

日時11月19日（日）12時半～14時半
場所：中国菜館Chinois大久保（JR川崎駅西口より徒歩5分）
会費：男性9000円、女性8000円
問い合わせ：森田博昭（090-4664-3977）